

びわこ大なまず通信

第11号

平成19年1月1日
びわこ惑惑クラブ



平成19年 新年の挨拶



2007年の新春を迎え謹んで新年のご挨拶申し上げます。
昨年は『びわこ惑惑クラブ』も創立15周年を迎え、フィジーへの海外遠征を実施し、巨漢相手のラグビーを満喫でき、充分なる親善も図れました。



ナンデオールドイズ会長(左上)らと国旗を挟んで

また、多数のご家族にも参加願い、観光と応援等、記念行事に華を添えていただきまして有意義な記念の年となりました。

今年は、若手の会員補強による、組織拡大とチームワークの強化を意欲的に取り組み、びわこ惑惑クラブの更なる飛躍の年となるよう努力するとともに、本年もラグビーを楽しみましょう。



会長 今村 房三

“ブラ・フィジー”

南太平洋、メラネシアの島国フィジー。ブーゲンビリアの赤い花が咲き乱れる南国のパラダイス。ナンディ国際空港におりたつと、まず男性のコーラスがわれわれを歓迎してくれる。マイクを通さずナマの人間の歌声に、フィジーの人たちの暖かさを感じる。

時間がゆったりと流れ、透けるような海の色。水平線に浮かぶ島々の影。

「ブラ」(今日は)と微笑みかける人々の笑顔。ここはひょっとして、神様が作った天国ではないかと思う。



富田 裕作



交流試合前の記念撮影風景

南国の夜は、歌と踊りと、別れを惜しむなごやかな歓談で、更けゆくことを知らない。
フィジーのラグーたちは、40歳を過ぎると、ほとんどがラグビーから離れていくという。40歳にならないと入部の資格がないわれわれの惑ラグビー。

フィジーへの遠征は、フィジーの人達のあたたかさ、われわれ日本の惑ラグビーのしあわせを、再認識させられる旅でもあった。



交流パーティ会場



ナンデオールドイズとの試合(フォワード戦)



リゾート・マナ島のレストラン



惑夫人方の交流風景



ジャイアントスリーブマウンテンの蘭の公園で



ウエルカムパーティのメケショー

編集後記

今回は、フィジーへの海外遠征をメインに編集した。もっとすばらしい写真をお持ちの方がおられたことと思うが、手持ちの写真で埋め合わせたことをお許し願いたい 松田

